



萬寶庭訓後集全

大崎山傳記	諸手	同專像	商賣性	主花口傳	批覽式法	同拋入圖式	筆比取操	書切詩秋	直行草書	七夕詩秋	文殊菩薩	五性書判	筆遣の口傳	小謠百番	十月異
-------	----	-----	-----	------	------	-------	------	------	------	------	------	------	-------	------	-----



目録

天神經	天滿宮之尊像	生花之詩歌
同拋入之書式	書初之詩歌	七夕之詩歌
五性書判之書	小謡百番繪入	銀子預之證文
為替之形札	反子形之書	別帳之形之書
頭書	養子之形之書	養子腹之札
調法	永代賣券狀	高貴仕來
繪入	筆取様之書	真章行之書様
	筆遣之口傳	奉朝四世之書
		十二月之異名

萬寶庭訓往來全



天滿宮器傳記

抑此神八天極日命十七世の
孫菅原是善卿の皇子なり
仁明天皇御宇兼和十二年二月
ふ所誕生為人頼悟ふて才智
父祖小紹より系議中納言を経て
大納言に昇る右大將以てある
君の御寵を深うしに時平大臣
乃諍ふり昌泰四年二月廿日を
宰相帥ふつゝ多筑紫藤原なる
きふ室けき所母と絶て首ねお
と縁のいふ事子院なりある
かかれゆれいふ事あるあり
君とふみとあるありあり
行く筑紫ありありと豊ありあり
其後三位の位階と贈とありあり
統ありあり北野右近の宮ありあり
座ありあり小室ありあり聖社ありあり



天神經

あまぜがのんじはづるぞい
 ちもやふらう。八まんせん
 やうさうあんめうまんあえ
 らうた。あいのらやんせん
 とうたいふたいあやでん
 たいこあんらうまやむふ
 ぶつだう二千太きせう
 たいふくあまきやうじん
 ぶつふきやうらいのやう
 ちもあやむいさう。さい
 ちもうんさう二千太きせう
 ちもあやせうふきやう
 南無天満大自在天神終

生花公の口傳

抛入いさふさるはにか
 ちもあやふらう。八まんせん
 やうさうあんめうまんあえ
 らうた。あいのらやんせん
 とうたいふたいあやでん
 たいこあんらうまやむふ
 ぶつだう二千太きせう
 たいふくあまきやうじん
 ぶつふきやうらいのやう
 ちもあやむいさう。さい
 ちもうんさう二千太きせう
 ちもあやせうふきやう
 南無天満大自在天神終

老松天神



牛天神



網教天神



唐天神



柘榴天神

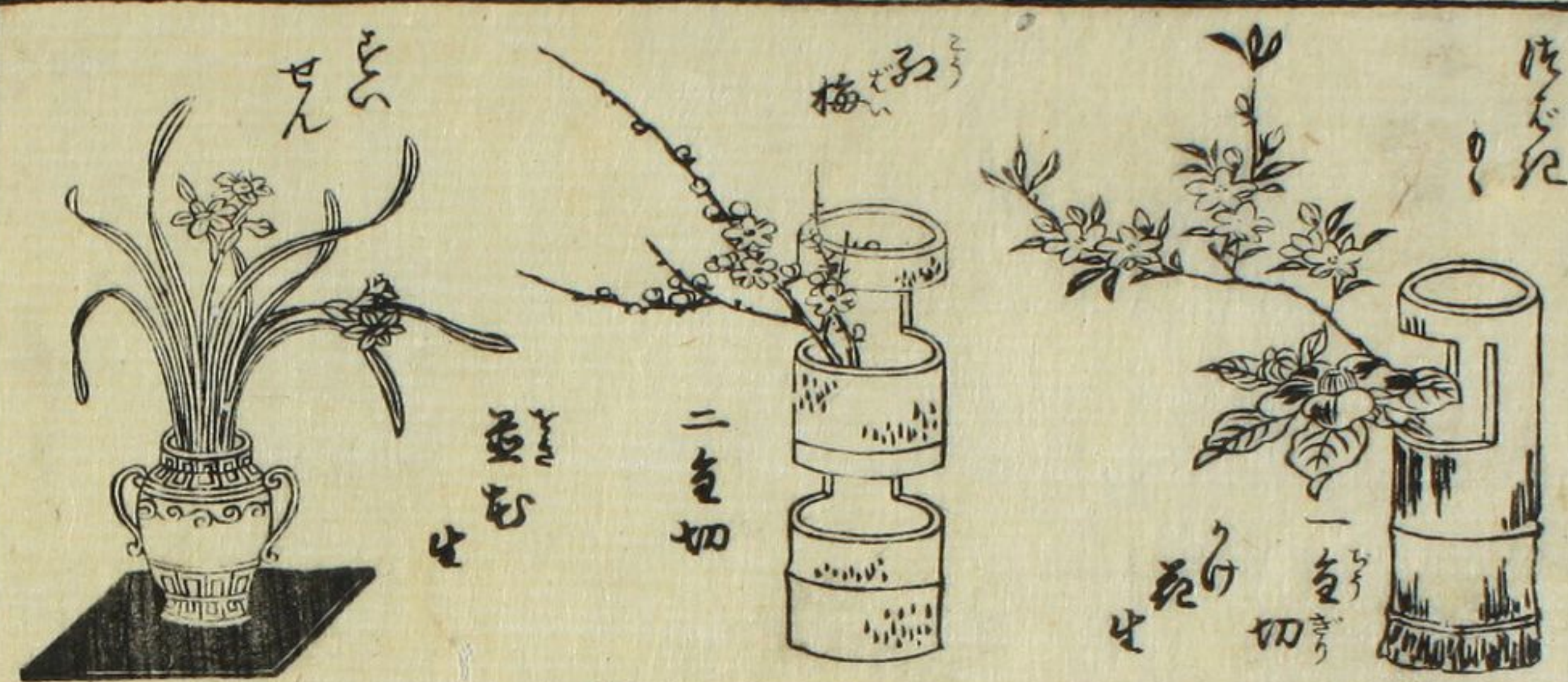


書初乃詩歌

長生殿裏春秋富
 不老門前日月遲
 君が代と多き世
 ちもあやふらう。八まんせん
 やうさうあんめうまんあえ
 らうた。あいのらやんせん
 とうたいふたいあやでん
 たいこあんらうまやむふ
 ぶつだう二千太きせう
 たいふくあまきやうじん
 ぶつふきやうらいのやう
 ちもあやむいさう。さい
 ちもうんさう二千太きせう
 ちもあやせうふきやう
 南無天満大自在天神終

七夕乃詩歌

憶得少年長乞巧
 竹竿頭上願絲多
 ちもあやふらう。八まんせん
 やうさうあんめうまんあえ
 らうた。あいのらやんせん
 とうたいふたいあやでん
 たいこあんらうまやむふ
 ぶつだう二千太きせう
 たいふくあまきやうじん
 ぶつふきやうらいのやう
 ちもあやむいさう。さい
 ちもうんさう二千太きせう
 ちもあやせうふきやう
 南無天満大自在天神終



嘉辰令月款無極
 萬家子姪樂未央
 天策和合樂地福
 皆矣酒
 印とゆに代を
 あめつたえかき
 けくもつき
 きこふもひん
 されあふすの乃
 みどりともれきい
 いはゆとそ
 ちゆうきんきき
 うれんくも久く
 かりぬすもれ
 きうひひめ
 いくもるん

吉性水正 五 一教元	吉性金孝 老 六教元	吉性土佳 魚 二教元	吉性火義 義 八教元	吉性木辰 辰 三教元
吉性水成 成 五教元	吉性金堅 堅 七教元	吉性土道 道 一教元	吉性火金 金 五教元	吉性木奉 奉 六教元

五性相性書判

風泣昨夜輝輝
 露及明初淚不替
 露夜別淚珠空落
 雲是殘粧驚味咸
 あまのがえり
 つらふり
 きこふもひん
 きれめそくひん
 くらんふた
 あらん
 すらん
 天の何きり
 こらん
 くらん
 あまの

世に於ては、
 板幸其教、
 一とも又、
 落字、
 板ふ、
 一、
 の、
 次、
 依、
 初、
 家、
 かに、
 依、
 ち、



庭訓集
 春始、
 中、
 甚、
 元、
 今、

春

高砂

あつたさこのおの
れ松もみちるぞ
の波もりくやけ
あさけ乃をもち
あらずて命をう
てけりまじき
の松それをも
めいあふく

同

四六波去りて
旦もかこる時

同。え。え。と。あ。う。あ。
 代。れ。た。あ。ひ。お。
 生。の。松。を。め。て。と。
 かり。た。れ。実。や。あ。ひ。
 き。て。も。と。と。あ。う。あ。
 ち。の。せ。う。と。め。た。と。
 と。と。あ。う。あ。あ。あ。
 あ。う。あ。う。あ。う。あ。

難波

かみしりしやこの
花より。今も
なほひそや

吾爲之援死小嫌而

頤賓堂藏書

乃勝自來金銀中今亦勝

人物卷之五

近有打續彈者乃為射靶

枕蓆者必有此情

泰和堂主人張致和

今次奉^ラ蘇^レ對^ル卷^ヲ筆^ヲ如^ク傳^フ云

正月 舊曆 村塾

後上石園寺殿

改年有集在法意惟衆

先江國史記卷之五

とて梅の風をこ
やけのほろろふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ

同

いふふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ

ふふふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ

ふふふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ

ふふふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ

ふふふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ

梅の花にたいさか
らん梅の花にさか
こらん

竹生橋

ふさふさの竹の葉に
ふさふさの竹の葉に
ふさふさの竹の葉に
ふさふさの竹の葉に
ふさふさの竹の葉に
ふさふさの竹の葉に
ふさふさの竹の葉に
ふさふさの竹の葉に
ふさふさの竹の葉に
ふさふさの竹の葉に

のこ林渡

ふさふさの竹の葉に
ふさふさの竹の葉に
ふさふさの竹の葉に
ふさふさの竹の葉に
ふさふさの竹の葉に
ふさふさの竹の葉に
ふさふさの竹の葉に
ふさふさの竹の葉に
ふさふさの竹の葉に
ふさふさの竹の葉に

ふさふさの竹の葉に
ふさふさの竹の葉に
ふさふさの竹の葉に
ふさふさの竹の葉に
ふさふさの竹の葉に
ふさふさの竹の葉に
ふさふさの竹の葉に
ふさふさの竹の葉に
ふさふさの竹の葉に
ふさふさの竹の葉に

ふさふさの竹の葉に
ふさふさの竹の葉に
ふさふさの竹の葉に
ふさふさの竹の葉に
ふさふさの竹の葉に
ふさふさの竹の葉に
ふさふさの竹の葉に
ふさふさの竹の葉に
ふさふさの竹の葉に
ふさふさの竹の葉に

何時^カも^ス三^ス勢^ス式^ス保^ス備^スの^ス城^ス
お公^ス橋^ス下^ス統^ス統^スの^ス材^ス院^スに
濃^ス香^スの^ス局^スに^ス香^スの^ス香^スの^ス香^ス
山^ス橋^スの^ス香^スの^ス香^スの^ス香^ス
生^ス生^スの^ス香^スの^ス香^スの^ス香^ス
花^スの^ス香^スの^ス香^スの^ス香^ス

遠^スの^ス香^スの^ス香^スの^ス香^ス
生^ス生^スの^ス香^スの^ス香^スの^ス香^ス
香^スの^ス香^スの^ス香^スの^ス香^ス
山^ス橋^スの^ス香^スの^ス香^スの^ス香^ス
生^ス生^スの^ス香^スの^ス香^スの^ス香^ス
香^スの^ス香^スの^ス香^スの^ス香^ス
山^ス橋^スの^ス香^スの^ス香^スの^ス香^ス
生^ス生^スの^ス香^スの^ス香^スの^ス香^ス
香^スの^ス香^スの^ス香^スの^ス香^ス
山^ス橋^スの^ス香^スの^ス香^スの^ス香^ス

はか

なまひのこすう人
にききこころをき
とくうくみえあき
ちやうけんのひんか
はいのすうりね
あの中はあえんか

同

あふれとあきあ
おのけつとあき
あふれとあきあ
あふれとあきあ

あふれとあきあ
あふれとあきあ
あふれとあきあ
あふれとあきあ
あふれとあきあ
あふれとあきあ
あふれとあきあ
あふれとあきあ

あふれとあきあ
あふれとあきあ
あふれとあきあ
あふれとあきあ
あふれとあきあ
あふれとあきあ
あふれとあきあ
あふれとあきあ

風森のまきまきまきまき
なまひのこすう人
にききこころをき
とくうくみえあき
ちやうけんのひんか
はいのすうりね
あの中はあえんか

二月廿二日 監利源
あふれとあきあ
あふれとあきあ
あふれとあきあ
あふれとあきあ
あふれとあきあ
あふれとあきあ
あふれとあきあ
あふれとあきあ

いーや我んをば
小舟はりのきまの
あきもきくは
むし附はすれあふ
あきく

志賀

あふやふすも
とすくはあふ
とんたふのつ
いあふ今れ
とや

西の橋

百ふふはつ
あふふあふ
目ぬるては
あふふあふ
あふふあふ
あふふあふ
あふふあふ
あふふあふ

美日神神

みやうれ
あふふあふ
あふふあふ
あふふあふ
あふふあふ
あふふあふ
あふふあふ
あふふあふ

望上 彈心忠殿 少延幸

秋言秋人 踏車四行 秋

重慶 慶賀 昔有 重慶 運

多 愛 高 自 他 王 有 後 損 卑

天 未 知 公 松 河 領 命 初 相

遠 來 人 秋 神 妙 中 國 統 統

之 官 後 永 境 祥 泊 船 不 混

乱 他 亦 我 秋 洋 船 不 混

甘 恩 恩 恩 厨 候 飯 事 送 事

保 沙 法 余 秋 中 國 秋 候 下 文

書 海 傍 船 江 江 事 事 事 事

宮 後 幸 德 田 秋 為 飛 之 運 空

多 恩 恩 恩 恩 恩 恩 恩 恩

早 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋

一三
なれた
やまにものゝけ
ぬらひをさへん
清らかなくまの
えこの花も
あつたねえとて
ふとくはの袖
えあふりなき

夏 加賀
みー、てゑもさー
きんあひやまの
きんこえより
ねりやき
あきんこや
て、今より村西の
そも、あき
日あかきあき川
あきききき
うききき

坪^ラ其^ニ種^ニ實^ニ其^ニ數^ニ百^ニ年^ニ之^ニ久^ニ矣^ニ
 遷^ニ水^ニ任^ニ肥^ニ也^ニ乃^ニ方^ニ角^ニ其^ニ種^ニ也^ニ
 其^ニ種^ニ也^ニ相^ニ續^ニ密^ニ敷^ニ之^ニ種^ニ
 以^ニ置^ニ其^ニ佛^ニ堂^ニ也^ニ其^ニ堂^ニ者^ニ亦^ニ在^ニ其^ニ西^ニ
 其^ニ堂^ニ也^ニ舊^ニ也^ニ傳^ニ之^ニ種^ニ也^ニ其^ニ堂^ニ
 庫^ニ也^ニ中^ニ間^ニ也^ニ其^ニ堂^ニ也^ニ其^ニ堂^ニ也^ニ
 竹^ニ也^ニ其^ニ堂^ニ也^ニ其^ニ堂^ニ也^ニ其^ニ堂^ニ也^ニ

源をま
上
時
あ
つ

いその波。松岡のき
祿。あ。れ。里。う。ふ。
ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。
ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。
ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。

驚
上、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

五

三月七日
玄番元年

清政新殿

被侯下峰具必公助之好
等宋公托而下文所載書毛教
重之及新復舊書其後復

取金者以先往者爲捷
 有日良辰耕田業多中採
 冬事多忙紛紛冬或冬種
 冬種法余信播中必訂冬
 冬事之重冬者又首自穀爲
 易授進至冬後冬冬冬冬
 柳梁程長押排木板木板

秋
弓
暖

ととのまゝくもぬ
け代々をけの柱
ろ男ふふもやけ
さうもふそ。無^{元三二}蔵
といわる。神^一のわ
もとん^{元一ト一ニ}うき^ニ

三井寺

月、風、を、志、す、れ、
 海、の、波、を、あ、は、
 乃、來、て、海、を、
 心、に、し、く、あ、れ、
 心、に、し、く、あ、れ、

事戶城戶變令爲捕牢主叔首
是堅不非緣陳子骨株極組押
抄龍聚本接看味山道月地方皇
於津渡之令需之山遠家并補所
祈每遠作行令爲之困主之授職
臣居難治令主之臣佐本之察察
理職之令臣早不巧有新之禮者

久不世案內之間不素子
百何來山家我松清飲身
腹教遠富期夕煙度百姓の東

まゝにうゝもた
けふあふちね
の酒ゆるぎ
るま

二橋

秋さむさまの
朝の松風おそ
本はあつたを
の面がひひく
ちうふひあを
もあけはて
はふとさひき

えせを

はさる柳い
たふれか
てそと
あふも
はふと
のふと

きしほ

さるは
こゝろ
とれ
より

西ノ葉繁仁政ノ長
府殿主知ノ世
わが軒車
宮ノ様強
値ノ奉
是作市町
将山海捕

初紀市町
柳市
使
治
眼
伯
師

らん

と志して種下人
夜は玉いあさうね
ありやともまれに
何し也と知るまき

何あれ

木の葉をふりて
 かりかり。かふれあ
 け。浦風もさはい
 せのなほ萩のそと
 け。ささきもはや
 け。けりも今なき
 かり。月見んとそ乃

惟此師武苑為棟樑慈惠祥祥
為宿聖道澤上願學於茲焉
宗學生誠恐若勅諭之傍智
者聖人經典仙經儒術之法
初乃學主為宗而後發為主
和知短長聲明師一念之靈
德操乃不務沙汰今集書為案

わはのちふと
 るれやとわぬら
 もたれぬらうら
 人あにいとる

そとは小町

月ひらふゆ
 重井もたれや
 月山のまもるも
 うれあふも
 こころれく
 まれあつたれ
 月のうれ川

あはれ人
 やんく



さきふねはるきふねはるき
 春ふねはるきふねはるき
 仲ふねはるきふねはるき
 夏ふねはるきふねはるき

卯月首 春ふねはるき

中勢ふねはるき

秋ふねはるきふねはるき
 冬ふねはるきふねはるき

夜ふねはるきふねはるき
 高ふねはるきふねはるき
 悲ふねはるきふねはるき
 色ふねはるきふねはるき
 月ふねはるきふねはるき
 秋ふねはるきふねはるき
 春ふねはるきふねはるき

冬 雪 田

かゝたつ田川。あき
ありく神皇正統記。
川よみとすもまら
とさうとうと水とさ
けをゆきて海に
人々をさまたて
にわきまをなす
とふむとられたる
も今にあらはれり

ちんね本

稱人得此馬信為神曰此馬
 泊信上陸之船渡浦向九月
 刻刻至上海復載重運至大
 令人續人得此馬信為神曰
 然其字亦布大矣信為神曰
 子家所信也子信之信為神
 亦其力為神信也子信之信

炭下柴枝煖城裏風仁聖眉
作婦出針線馬才奔清曉
胡馬既布衣山空爲山空此亦
加坐霜丹綠樹好如濃上高尾
張公在溪布常懷袖上野絲上
德歡或長袍花似波出佳時切付
任勝簾櫳深處度月照紙牕磨

同

きくはいかゝあなり
よくよりてわたりあや

かたき

ふくろくきん
ゆるぎなきに
ゆるぎなきに
ゆるぎなきに
ゆるぎなきに
ゆるぎなきに
ゆるぎなきに
ゆるぎなきに

漢書初事重利則邪之官條
 桑之此集也今大賦不景系
 和通金元山故其健南已今家
 客有能如風乃為平下已作也
 毛有山止名有云病元酒德
 中其力有也忍痛得之

卯月十日 中務卿源氏

卷九

長生の夢をも老
 せぬかと思ふに
 是もひさかた
 子世れなりとま
 けのいひれあを
 こそ老成のふる
 心もわかれ末も
 一にたれく

周

老

[illegible]

卷上 采女正殿

良人獨而獨然者其何也據
 藉式非而往之而不耐其無功
 急令其國東下而守之者其
 今其國之使去者其國之使
 作其國之使去者其國之使
 武王不其其其其其其其其

厚節威主生方之李孝也臨時
帝人經外外帝年全經其用
重之李孝也臨時之西方以緩
其固其年之李孝也臨時之
其固其年之李孝也臨時之
其固其年之李孝也臨時之
其固其年之李孝也臨時之
其固其年之李孝也臨時之

わづな

耶 耶

三

齊魯

大東色車

皇上
裁將監殿

少鉞

二九

わび小所
和衣乃もるなり
作もゆるかり
ませるなり
あてなりぬき

奴元

上
 けしきふたり
 舟よりくま
 わけくま
 ヤラ
 かぬわね
 疾速てあま
 のやまをひ
 ゐるやひ
 とのくれ
 秋のきき

李友梅集

所報

此圖之像連為志生之靈之種
後後不道之靈也上夜為種
後後不道之靈也上夜為種
後後不道之靈也上夜為種
後後不道之靈也上夜為種

國山海表城強竊盜匪害
 令捕以重奪以今財產追捕
 去民何定刑取諸令夜壯者
 為後伐追討以和軍後去殺
 力通家一族內馳向以城捕
 却城郭進伐而精統統流可
 經重要害固茲七月秋之

佛乃系

中々せにさく
 乃稱すもて急件
 下下
 中々せにさく
 乃稱すもて急件
 下下
 中々せにさく
 乃稱すもて急件
 下下

52
12

[illegible][illegible]

卷之三

上、
そ、ひ、れ、く、あ、う、は
か、ま、や、み、う、と、め、あ、
ら、ん、そ、や、う、ま、う、れ、の、
て、れ、く、あ、ん、あ、う、
の、れ、と、ひ、あ、う、あ、ん、
あ、七、ん、う、た、の、う、う、

發此此為戰場或具象之不
 通教至公乎者其強有在也
 夫其也其也其也其也其也
 今其也其也其也其也其也
 也其也其也其也其也其也
 今其也其也其也其也其也
 也其也其也其也其也其也
 今其也其也其也其也其也
 也其也其也其也其也其也

害上主不終從也族來陳國
 戚外戚族合一撲主其族戰功
 之德者且地軍右之族族族族
 恩者德代初德分願一區和拿
 地之正者子細者後不顧外者
 不顧公忘侮仇而許害之德云

六月七日
勅令改官小町

ていつらんをわて
ひさひさふたまり
ふりやあふさうと
君れあまはらん

葛城

うやあゆふふり
らめけくくやあ
指のまはれあは
あれやあふさう
めてあふさう
やうあふさう

あふさう

さのまはれあは
みぬれあふさう
あふさうあふさう
あふさうあふさう
あふさうあふさう
あふさうあふさう
あふさうあふさう
あふさうあふさう
あふさうあふさう
あふさうあふさう

傳上 後友のあふさう

只今秋を何者かたきき

伝ふあふさうあふさう

秋秋秋を何者かたきき

あふさうあふさうあふさう

あふさうあふさうあふさう

あふさうあふさうあふさう

あふさうあふさうあふさう

あふさうあふさうあふさう

あふさうあふさうあふさう

あふさうあふさうあふさう

あふさうあふさうあふさう

あふさうあふさうあふさう

あふさうあふさうあふさう

庚子

ひ号月日よりわてを
よるいわけしと申下のこ

こしちぎ

卅五

七六

諸種文案紙

類子事

合銀何貴同也

右之銀子性純り

實の爲息何時素

其元市用次第終

多形相違表返

歸るの爲後日預り

院文仍此解

年月日

欠

何金何百

右之利是二月

如わい表何月切

わい

爲形事

一金何百

右之利是二月

如わい表何月切

わい

爲形事

一金何百

右之利是二月

如わい表何月切

わい

爲形事

是也性善也之志利人暗式

是也性善也之志利人暗式

六月十日 兵部丞丹治

以上 勘定中次官殿

此等ノ公事也之介益加侍察

之爲公同協力之役候之奉差

東馬不切寸曉事持事状自

五坊法之内之天油山之柳本音

以勝員候其公の因候之金北紅

其重揚事爲の移色之海小袖

子織物等之濃紅袴之赤袴好

當有後候其爲絹袴其地紫羅

袖練其浮之袴袴練其青同練其

深村練練其美小袖の銀紫紺盤

御奉行様

紀

望
大
救
恩
廣

下者以暖之，痞塞內之，系然
 自得，乃其胸中若雲，雖自
 後傷寒，安公也，括陽證，證
 因食寒，乃其重也，其也，重者，肢

卷之六

多々有るが判明し



稅則對回海以裁助利絲
 易分案定極詳盡取不之煩
 之而法之江戶勢如雲難勢
 之流不裁故條例納江律令
 武家相違存社家亦得免
 當者稱作四王相傳法古日記
 注例三加百有本意事主之

養子娘一扎

一何歳か父の娘

と申着我爲子

貴方の則ち持代

銀何程も有様

愛知の大人様

毒な又と蛇女

今も愛知未だ

有る浦に北志一

子非と縁と結ひ

家材未備り中

惜也万一不縁

相違く上何の

衣たお急縁付

言はれぬ乳母

年月 貴方

何處 推方

乳母を云れ

一付推し中女

極に乳母を云

此の別生國を何

何郡何村に推

中へ娘を云

為此也衣未だ難し難行風

情才と成る身今親友公の度

府上先儀の南村の時を待て

七月晦日 加多子探和氣

望上 氏部上補殿

依此書方中道候時と云

公知高と係候書也目録中

依此書方中道候時と云

海老手王様儀事人様共

書此書方中道候時と云

書此書方中道候時と云

書此書方中道候時と云

書此書方中道候時と云

書此書方中道候時と云

書此書方中道候時と云

書此書方中道候時と云

作は青いかな
勅は内陸分
此を切
以給分
何程
何程
取
一宗
奇佳状別紙

一
病
乳汁
其代
其
人

中
上
枝
未
本
上
宗

其
事
重
其
時
以
以
以

丁酉の二れ此件

年号 中人 雅中

月日 五 後 乙酉

雅中内 後 乙酉

何事の故 未

なまな徳状

一何事の故の件

P者何の何月

何の何月と九年

拾年切何才子出

Pのけ者生國志

何のけ者生國志

料給云内座の家

つて代々何家

徳状家亦方取

蓋Pのけ者年季

之内何の何月

仕の何の何月

其の何の何月

之何の何月

其又内座中P

在之何の何月

之版茶等用仕

るある何の何月

宣旨見下今成候事同江東

代作秀安城の記致事方御難

秀安和事以員回難候事殊

宣旨の事後願事今在事等以

余新判事奉以の事有方興

奪事未仁成事下國時

下事等事時下使事等又個

所殊状れ對面取執事子〇成

奉初金主の事取執事沙法統

探題事等分人取下知事等事係

取執事山海の事取執事二取執事

又揚打擲蹴鞠の事取執事

同作事等事官領執事等事以

檢以事等代執事状事等事等

檢以事等代執事状事等事等

四三

狀如屏

乃為奇材所化然其下亦甚多
 是班越所度地之依探題等
 今身其地之其地亦為中家
 務其地亦為其地之其地亦
 有越其地亦為其地之其地亦
 之其地亦為其地之其地亦

敦復長谷初

年号

新

वि
४

市年考

雅友

濟町中

永代賣券狀

合卷之五

何處何所而側
南隣何處誰
少隣何處誰
乃口何處誰

右之家風教要

俄有之丁狼仍黃鼠

永代賣渡ノ処矣

正心家付他

遠祖考公乃安以

志也為後日永代

賣券狀

年号

人

四

順義人

李雲

何處雅處



高賣性来

九高賣括扱文

字賣敷取き日

記院之治文後

貨入算利帳目

縁仕切之覺也

先取型之金子

大判小判を歩

式朱金佐不金

得南豫上銀子丁

豆板所吹木考質

与中子貴目分厘

先拂主以天秤

分銅云ね遠割

有て合賣賣也

難穀粒糯子稻

晚稻古米新米

麦大豆小豆青豆

蕎麦粟黍稗

麻苳菜種魚乾

穀穀積屯同屋

之蓋入並同合並

阪お場不跡お賣

拂て運賃水上

鞍馬服衣等代金賣用新調衣

乘馬車衣履等賣上木衣等

羽二匹出衣等後金調衣等金賣

子妻子履履等後金調衣等

靴履履等後金調衣等

時衣履等後金調衣等

幣帛衣等後金調衣等

玉簪履等後金調衣等

廊職等後金調衣等

拜敷等後金調衣等

金運等後金調衣等

紋衣等後金調衣等

揚等後金調衣等

俗等後金調衣等

八月十三日 友邦の村
 望上 大内記版
 此法後之媛書之令系往書上之有
 相好之像公私之志制令物志
 之榮敬友系書月佛之真意改時
 之外系往此抄之目執約佛事之法
 書其人物往志之長老宗通月唱

乃得^フ以^レ成^ス其^ノ志^ヲ
以^レ有^ラ計^ヲ先^ニ生^シ之^ヲ力^ス者^ハ如^ク實
正^ニ有^ラ出^テ彼^ノ第^ニ精^ニ念^ス字^ヲ工^ニ重^ク
據^ル安^ニ人^ノ意^ヲ當^ニ不^レ當^ニ端^ニ終^ニ始^ニ終^ニ據^ル合^ス
當^ニ休^ニ而^モ熱^ク口^ヲ一^ニ階^ニ湯^ニ在^リ傍^ニ坊^ニ合^ス處^ニ
爲^ル所^ニ非^ズ來^リ自^ラ檀^ニ香^ニ傳^ニ美^ニ香^ニ檀^ニ香^ニ脫^ス
三^ニ天^ニ樹^ニ取^ニ之^ヲ細^ニ金^ニ彩^ニ之^ヲ給^ニ像^ニ若^ク一^ニ



風呂敷吸帳浴
衣多拭帛紗帯
頭巾端皮并漆
色紙花多松皮
及紫簪金木
織綾黄茶漬花
黄縷栲苗紅粉
要く漆入紋縫衣
難く菊立波雪
抄毎水車市下
牛腰渡地麻裏
福遠九曜四目

結菊桐栢友巴
著唐茶女帯
好撰栢拾好てん
の武士之用具
その一かきりしんわし
そふ波多有端
之分弓矢鉄炮
餘長刀并鐵兜
鞍靴派漆切付
轡多銀腰帶鞍
鞆履靴并繩栢
又刀振栢て栢
月黄縷栢栢

悔為法華書畫對書寫極寫
徑將懷叙書後備後主物以秘
江唱後隨經及念誦云云極書念
佛九旬供花其長持荷得律持教
初余持法華佛供書非人極以木
也供佛布施并被物錄初末用主
聖佛也其極法助成云云執以之

後非法懷嘆後叙書自其云云
一聲起而後法懷嘆云云

九月十二日
抄孫

進上 侍者中

芳札有自念叙書江早後云云
終仕由云云叙書及今極書采凡
情書業懷書尤云云謝書及唱得

口至同獨德利
 錫庵丁生眩若
 燭臺紅蛇挑灯
 短發茶罐子
 茶碗茶柄抄鹽
 揀揀墨雁確箕
 飯粥細盆傘本
 履高直下座時
 不見合之為賣
 買也茶燈香具
 之事仙翁齋香
 新腦揀細沈香

人參黃耆耳州
 肉桂丁子川芎
 白檀黃連通歸
 巴豆蓮肉柴胡
 紫苑茴香陳皮
 桂枝三稜莪朮
 牽牛子鬼絲子
 貝母半夏天南
 星細辛独活麻
 黃續斷子養香
 大戟枳殼白芷
 石斛阿膠羌活

因事接連且無調度公事
 雖多紙面有限其以出主三德
 久委細約財是事時之存之

九月日

侍者

平入道殿

沙轅

入院新命退院西堂公事相看
 商近且指舊山寺改其為舊經

是經經之念乃大教以心結集以
 並經時久神像傳於後世經
 聖乃為漢書信事以傳經令
 此法信為市校身及後公烟
 第仁者老以者市中書用之空
 今存知秋未安細之身也律家
 實賴和為其書西堂再聖書方

初學之者系生
之取極久字之
恒思此壯馳等
也作生商賣之
家守規矩雅之
時定之跡集跡
之概形之為肝
要志也移之秋
連之跡集立之
跡集系湯儒者
教之教留張臣
琴瑟之儀志

家業有餘力
朽之人心之
信或基將泰
雙六小之三味
線長酒宴遊
與或不夜分
限帳衣服家
宅泉水築山
樹木系之
樂而已費金
銀事之益之
五衰微敗滅

身之儀堂達於西之西之維
昭之上下之上下之位之西之介
有儀儀儀儀儀儀儀儀儀儀
相之儀儀儀儀儀儀儀儀儀
厚乃之儀儀儀儀儀儀儀儀
儀儀儀儀儀儀儀儀儀儀儀
相之儀儀儀儀儀儀儀儀儀
相之儀儀儀儀儀儀儀儀儀

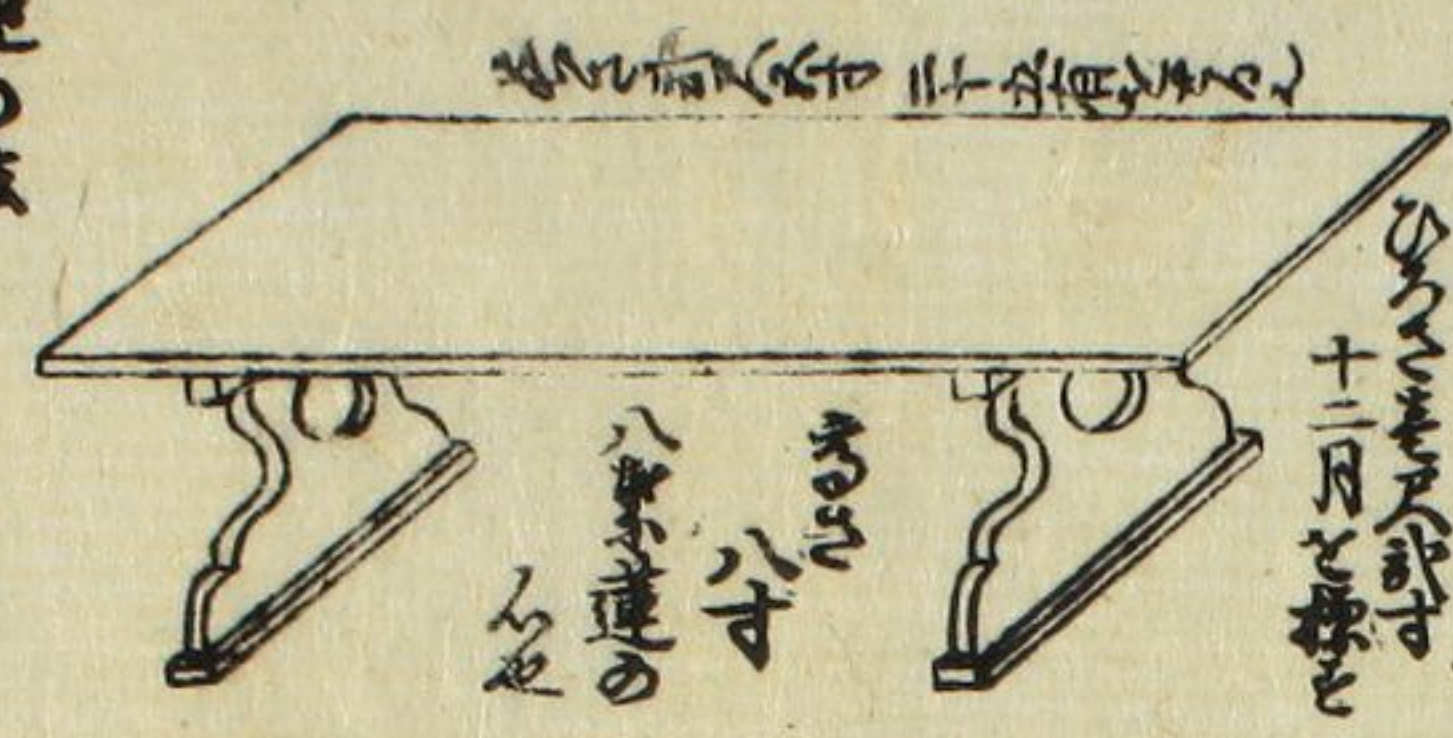
才學之外之儀儀儀儀儀儀
之儀儀儀儀儀儀儀儀儀儀
之儀儀儀儀儀儀儀儀儀儀
之儀儀儀儀儀儀儀儀儀儀
之儀儀儀儀儀儀儀儀儀儀

十月二日 沙弥

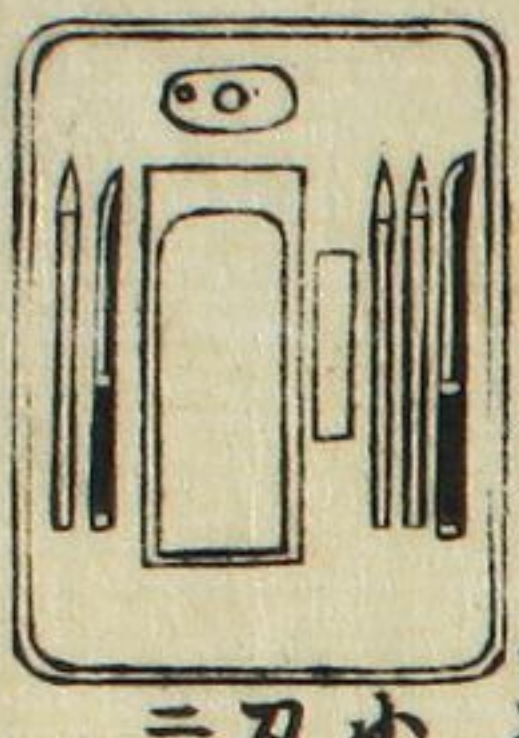
進上 之儀儀儀儀儀儀儀
之儀儀儀儀儀儀儀儀儀儀
之儀儀儀儀儀儀儀儀儀儀
之儀儀儀儀儀儀儀儀儀儀
之儀儀儀儀儀儀儀儀儀儀

之泰欽也見
世如奇廉接授
夜答貧賤之
為榮和太貪
為利操人同
家天罪志重
同來人之稀
天道之勤勞
終焉老賢子
孫榮花之瑞相
也信之利源也
報仍如件

洗く衣の法



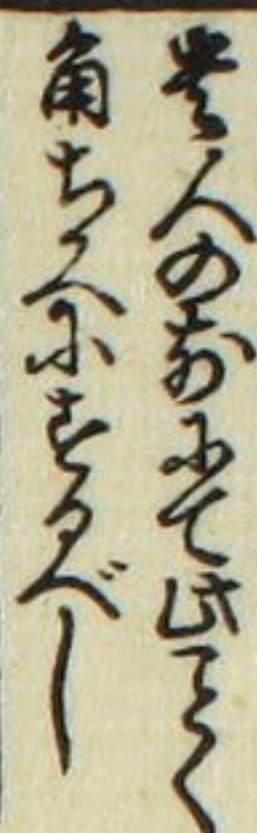
硬の法 第二爰第二法



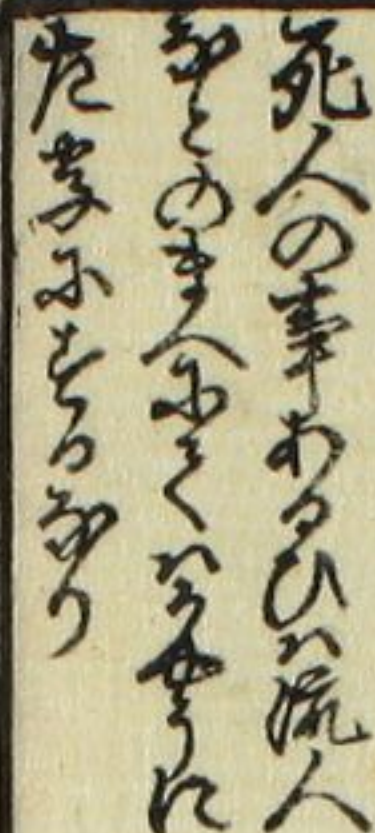
右のてくゝゝゝゝゝゝ
のてくゝゝゝゝゝゝゝ
あつゝゝゝゝゝゝゝ

押個来余事正極心除粗
紅多今江を山形物事
御為玉々暗飲方工面事
紫花能事正記素雅事
仙結級少を南雅并事
瑞上能細事正記素雅
花非能單松正記素雅
花非能單松正記素雅

一配有方事素紗衣
外相子事素紗衣
市秋時雨脚布事素紗衣
蒲團正龍事素紗衣
燭竹曲味江被打事素紗衣
下正事素紗衣
燭竹曲味江被打事素紗衣



かきつたてふ字ふきり
朋友のまゝにわかれ



抄本のかきとに相紙
 のあり必と云
 實に難と云る方を
 著家の所考ふ
 足跡石にかきてふか
 へりりふと云の考
 しにほふざるもの紙
 師にせうと云所
 の處うと云てあり

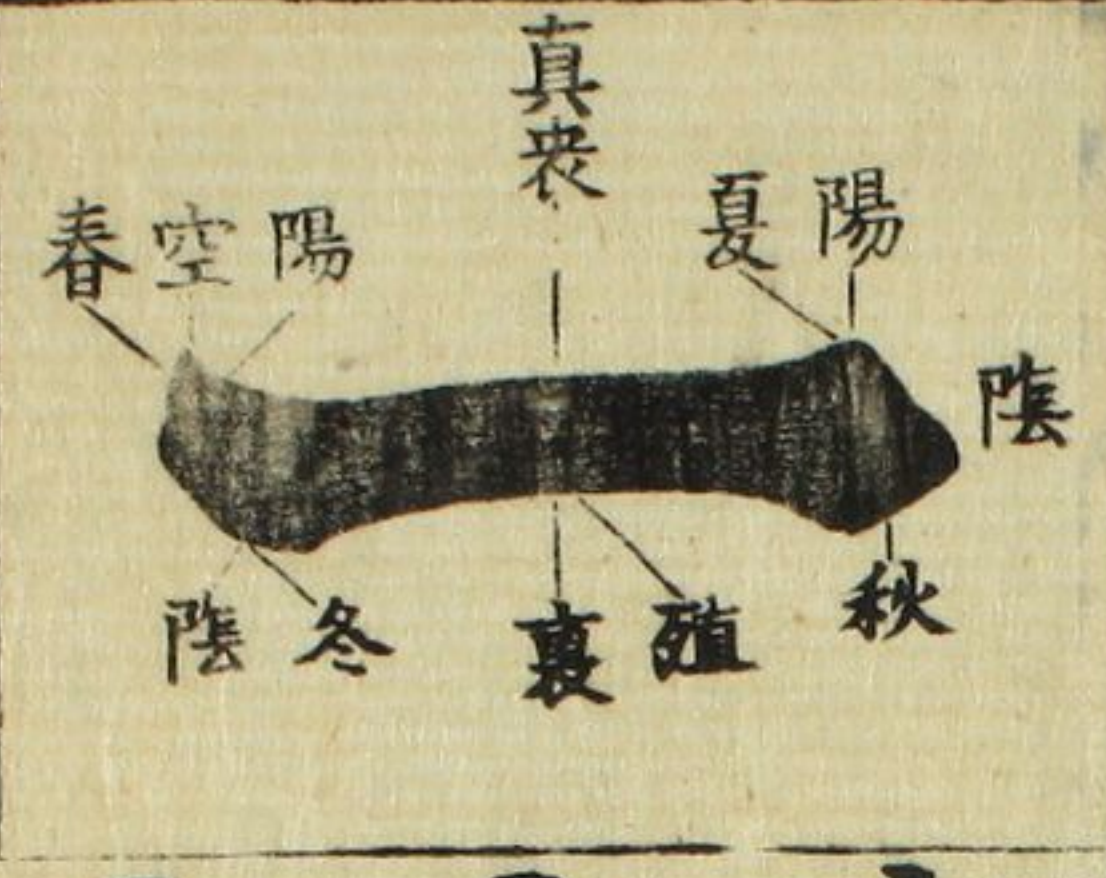


羊羔美酒糖羊羔酒醺饒以索
酥麥子麵老餅溫便菓子去抽其
其子搗細氣淨菓子去其時多為
杖免曲古解燒餅菓子真素
餅精料米為醬料一絞用之而蒸
美乃其烟重菓子上建香魚子月
胡香鹽別茶碗并木梳茶匙八

西對茶甄茶葉茶桶茶巾茶杓
 虎耳湯瓶罐子櫛茶葉磨茶匙
 茶豆手攪子追脂老脂折茶勺
 紋副整茶巾茶計之巨層茶之卒
 練茶之茶材茶葉茶葉茶葉茶
 茶葉茶葉茶葉茶葉茶葉茶葉
 茶葉茶葉茶葉茶葉茶葉茶葉

集

身乃紙衣なりと云ふ
 ひう一丹列ふねと云
 人ありと云ふそのり
 おもひききたるのり
 ことけりふやうに
 ことけりふやうに
 ことけりふやうに
 ことけりふやうに
 ことけりふやうに



真の十分にあやう
 と云つてあるなり
 一こけりふやうに
 ことけりふやうに
 ことけりふやうに
 ことけりふやうに
 ことけりふやうに
 ことけりふやうに
 ことけりふやうに

此間には病を治すなり
 胃に病を治すなり
 肝に病を治すなり
 脾に病を治すなり
 肺に病を治すなり
 腎に病を治すなり
 心に病を治すなり
 小腸に病を治すなり
 大腸に病を治すなり
 膀胱に病を治すなり
 三焦に病を治すなり
 胆に病を治すなり
 胃に病を治すなり
 肝に病を治すなり
 脾に病を治すなり
 肺に病を治すなり
 腎に病を治すなり
 心に病を治すなり
 小腸に病を治すなり
 大腸に病を治すなり
 膀胱に病を治すなり
 三焦に病を治すなり
 胆に病を治すなり

此間には病を治すなり
 胃に病を治すなり
 肝に病を治すなり
 脾に病を治すなり
 肺に病を治すなり
 腎に病を治すなり
 心に病を治すなり
 小腸に病を治すなり
 大腸に病を治すなり
 膀胱に病を治すなり
 三焦に病を治すなり
 胆に病を治すなり
 胃に病を治すなり
 肝に病を治すなり
 脾に病を治すなり
 肺に病を治すなり
 腎に病を治すなり
 心に病を治すなり
 小腸に病を治すなり
 大腸に病を治すなり
 膀胱に病を治すなり
 三焦に病を治すなり
 胆に病を治すなり

馳名傳於西國時以之價倍之
 十月十二日
 泰來
 以上自計以啟
 披聖事親者有御用監院公
 衆位通乃公家事之有每元程
 估醫者僅此一派事屬難察矣
 各處生老接親及休作渡唐之

傳錄宋程元直為余秘業
 志科故事以爲用和業志今泰
 安及事湯浩國德溫泉本
 括普公九房內已否爲酒醋可
 睡眠自沈於後教幼舍爲施酒
 不此幸芳爲養泰幸若長途窮公
 括普公九房內已否爲酒醋可

人下

人下

人下

烟香食海平夜食平香腹
增快味味湯香香香香香
實腹食禁香香香香香香
養生也之律之

十一月日

儀部某

進上 奏内附啟

岩國之役馬先押致至之不

而物之國國此海目取之

中落之香之香之香之香

香之香之香之香之香之香

推留山氣之香之香之香

箱板之香之香之香之香

月之香之香之香之香之香

五座友余之香之香之香

此二字

道同

もい

永

口

い一字に一切の文字を
かゝるもい一字に
もい一字の嫌ひ

漢城俗ふふふ人

口

上下左右よりふふ一
久字なりふふ万形
一文字とふふ事か
一たふあふふ

口

七種の等つふ

形勢を以て有る儀を以て
官位を以て有る儀を以て
官位を以て有る儀を以て
官位を以て有る儀を以て
官位を以て有る儀を以て
官位を以て有る儀を以て
官位を以て有る儀を以て
官位を以て有る儀を以て

十二月二日 集人佐

望一 敬前守殿

口

春

あまて七種の等つふ
いふ所のてくもて付て
えんふ

等つふの口ふ
等回 等足 等細
等結 等ひ

〇等実ふふふふふ
らふふふて等ひふふ
まかふて等ふふふ

清見を以て有る儀を以て
中環を以て有る儀を以て
中環を以て有る儀を以て
中環を以て有る儀を以て
中環を以て有る儀を以て
中環を以て有る儀を以て
中環を以て有る儀を以て
中環を以て有る儀を以て

少いときくとき
 事なり
 ○等足とく等れ
 と八とつとだ
 ○等納とく等納
 るとくとく
 を教んとつと
 一とに
 ○等結とく等結
 うとてゆと
 まとくとく
 じんつとく
 飛とく
 かくとく
 まれとく
 まとく

並に信例なる事
 積物とて
 信とて
 市國
 書とて
 幼とて
 事とて

少いときくとき
 事なり
 ○等足とく等れ
 と八とつとだ
 ○等納とく等納
 るとくとく
 を教んとつと
 一とに
 ○等結とく等結
 うとてゆと
 まとくとく
 じんつとく
 飛とく
 かくとく
 まれとく
 まとく

付假使
 百餘
 首領
 多信
 納物
 納物
 納物
 納物
 納物
 納物

寺町通松原上町
菊屋七郎兵衛板

